

第5学年 国語科学習指導案

1. 単元名・題名

物語を読んで、自分の考えをまとめよう
「わらぐつの中の神様」

2. 指導の考え方

○ 子どもの実態

本学年の子どもたちは、多くの子どもが読む学習は好きと答えているものの、嫌いと答える子の中には、読むことを苦手と感じている子も少なくない。書き込みで読み方の種を使うことや交流で「読みの3点セット」を使うことについて、苦手意識がある子が多いことがわかった。これは、筋道立てて自分の読みをつくり、友だちと交流して練り上げることについての指導が不十分であるためと考える。

これまでに、「のどがかわいた」や「大造じいさんとガン」の学習で、場面をつないで読む、呼称の変化を読む「読み方の種」で、登場人物の見方考え方の変容を読み確かめる学習を行ってきた。その中で、根拠とすることばかり自分なりの答えを出すことはできるようになってきたが、解釈をして自分の読みをつくり、交流することでの深まりは、まだ十分とは言えない。

○ 教材の価値・特質

本教材は、人の身になって尽くす真心を大切にしてきた祖父母の生き方と、その生き方に感動して変容するマサエの姿を通して、人として大切な考え方や生き方を描いた物語である。5年生と同年代の主人公の成長は、自分の見方考え方を問い直し、物事の本質に迫る価値を見つめさせる上で意義深い。

文章構成の特質としては、「現在—過去—現在」の3つの場面からなり、おばあちゃんの昔語りを前後のマサエの姿で包み込んでいて、昔語りによってマサエの見方・考え方が変容したことが読み取れるようになっている。また、昔語りの人物たちが実は祖父母であったことが種明かしされることで、マサエの感動やおどろきがそのまま読み手自身へと伝わり、さらに、数十年にわたって祖母がそのことばを大切にしながら祖父とともに一貫して生きてきた姿を思い描けるようにしている。

文章表現の特質としては、方言を交えた生き生きとした会話文によって、登場人物の様子や心情を想像しやすいことがあげられる。また、「神様」という象徴的な表現で祖父母の価値観が表されており、具体的な言動とつなぐことで大切にしてきた見方考え方を読み確かめることができる。

これらのことから、本教材は、場面をつなぐ「読み方の種」を用いて「神様」に込められた意味を考えることで、祖父母の生き方考え方を読み取り、自分の経験とつないで考えることに適した教材である。

○ 指導にあたって

はじめに、単元名とリード文から学習の構えをもち、題名と冒頭をつないで読み、わらぐつに対して見方考え方の対立しているマサエに話をしてやろうとするおばあちゃんの姿に着目させ、マサエに伝えたいこととマサエの変容を追求する読みのめあてを生み出す。

全文を読み通した後、「現在—過去—現在」の構成と展開をとらえさせ、「神様」という言葉と登場人物の言動を手がかりに予見を書きまとめる。そして、読み確かめの中心文に問いかけ、「神様」の意味やマサエの変容を読み確かめる学習計画を立てる。

読み深め・確かめでは、【書くこと①】で自分の読みをつくり、代表児の発表をもとに場面と場面を比べたりつないだりする「読み方の種」の活用や、再書き込みなどの言語活動をもとに【交流】し、おばあちゃんが伝えたい生き方やマサエの変容について、読み確かめていくようにする。そして、再書き込みで大切にしたことばの意味や働きを確認した後【書くこと②】で深まったことをまとめ、大切にしたい言葉や「読み方の種」を明らかにしてまとめるようにする。

最後に読みのまとめ・読み方のまとめでは、題名・単元名にもどって、作者が「神様」という言葉に込めた思いについて考えさせ、題名「わらぐつの中の神様」には、人の身になって尽くす真心を大切にしてきたことで幸せに人生を送ってきた祖父母の生き方考え方が表れていることをとらえさせる。そして、ことばの大切さに気付き、発見し、確かにするために、習得・活用した文章構成の意図を読む、場面をつないで読むなどの「読み方の種」をまとめる。また、読み取った祖父母の生き方考え方についての自分の考えをまとめ、単元のまとめを行う。

3. 単元の目標

- 人の身になって尽くす真心を大切にしてきた祖父母の生き方とその生き方に感動して変容するマサエの姿を読み取り、そのものの見方考え方について自分の考えをまとめることができる。
- 文章構成の意図を考えて読む読み方や場面と場面をつないで読む読み方、繰り返しの表現や文末表現を読む「読み方の種」を習得・活用し、書く活動や交流活動を通してことばの大切さに気付き、考え、発見し、確かにすることができる。

4. 学習計画 (全10 時間)

学習過程	時	主な学習活動と内容	・「読み方の種」 ☆大切に言葉	指導上の留意点・言語活動の工夫 ○【書くこと①】の観点と手だて △【交流】の観点と手だて □【書くこと②】の観点と手だて
読みのめあて	1	<p>1 単元名と題名, 冒頭から読みのめあてを生み出す。</p> <p>(1) 単元名とリード文から学習の構えをもつ。 ・「自分の考えをもつ」とは、ものの見方考え方であること</p> <p>(2) 題名から考えたことや疑問に思ったことを話し合う。</p> <p>(3) 冒頭を読み, 登場人物の考え方の違いを話し合う。 ・マサエの言動や文末表現に着目し, わらぐつや家族を軽んじていること ・おばあちゃんの言動からマサエに何か伝えたいことがあるということ</p> <p>(4) 読みのめあてをつくる。</p>	<p>・題名のはたらきを読む ☆わらぐつ ☆神様 ・文末表現を読む ☆みったぐない ☆神様だって ☆迷信でしょ ・人物設定を読む ☆わらぐつはいいど ☆神様がいなさる ☆まじめな顔になって ☆眼鏡をはずしました</p>	<p>・物語を読んでその特色や「わらぐつの中の神様」に込められた作者の思いについて自分の考えをもち, まとめるという学習の構えをもたせる。</p> <p>○ 題名から気付いたこと, 疑問に思うことを書かせる。 ○ ものの名前が題名になっている教材を想起させ, 題名のはたらきについて考えさせる。 ○ マサエがどんな子なのか分かる文にサイドラインを引かせ, そこからマサエの性格や見方・考え方について考えさせる。 △ おばあちゃんの言動に着目し, おばあちゃんがマサエに伝えたいことは何だろう, マサエの見方考え方は変わるのかという課題意識をもたせる。 △ 文末表現に着目している子どもを意図的に指名し, 読み方を意識付ける。 □ 書き出しを与えたり, 題名を読んだときの疑問に戻ったりして読みのめあてを書きまとめることができるようにする。</p>
	予見	2 3	<p>1 読みのめあてに沿って全文を読み通し, 文章構成を把握し, 予見を書きまとめる。</p> <p>(1) 全文を読み, 難語句の意味や新出漢字の読みを理解する。</p> <p>(2) 文章構成をつかむ。 ・1 行空きで現在-過去-現在の3場面の構成であること</p> <p>(3) 登場人物の見方考え方やマサエの変容がわかる言動を抜き出す。</p> <p>(4) 祖父母の見方考え方の共通点や生き方, マサエの変容の理由を考える。</p> <p>(5) 予見を書きまとめる。</p>	<p>・文章構成の意図を読む ・一行空きを読む ・ダッシュを読む ☆-それから若い大工さんは言ったのさ・ ☆どうだい, いい話だろ ☆とっても幸せにくらしているよ ・場面と場面をつないで読む ・文末表現を読む ☆…かわいいね ☆神様がいるかもしれないね ☆かかえたまま飛び出しました</p>
<p>[読みのめあて]</p> <p>○ おばあちゃんは, 「わらぐつの中に神様のいなかった話」で, マサエに何を伝えたいのだろう。</p> <p>○ この話を聞いてマサエはどう変わるのだろう。</p>				

学習計画	4	<p>1 個人の予見をもとに話し合い、予見を方向付ける。</p>	<p>△ 予見を事前に分析し、グループに分けて発表させて、予見を方向付ける。</p>	
	<p>[予見]</p> <p>○ おばあちゃんは、マサエに、「大切なのは、見かけでなく、人の身になって精一杯のことをする真心だ。そういう真心を大切に生きてきた自分たちは幸せだ。」ということ伝えてたい。(神様につながる大切な心や考え方+自分たちの生き方)</p> <p>○ マサエは、人の身になって精いっぱいのことをする真心の大切さに気づき、おじいちゃんとおばあちゃんの生き方に感動して、尊敬の気持ちをもつようになった。(神様の受け止め方の変容+祖父母に対する見方の変容)</p>		<p>○ 中心文を決めて中心文の言葉に疑問をもたせ、読み確かめる内容と問いかけを設定する</p>	
		<p>2 予見の共通点や相違点、曖昧な点などを明らかにし、中心文をもとに読み確かめていく計画を立てる。</p>		
<p>[学習計画]</p> <p>① おばあちゃんがマサエに伝えたかったことは何だろう。 ・「神様」とは何のことだろう。 ・「どうだい、いい話だろ。」と言っているのはなぜだろう。</p> <p>② マサエはどう変わったのだろう。 ・「この雪げたの中にも・・・神様がいるかもしれないね。」と言ったのはなぜだろう。 ・マサエの言う「神様」とは、何を指しているのだろう。 ・「かかえたまま・・・飛び出して」いったのはなぜか。</p>				
読み深め・読み確かめ	5	<p>おばあちゃんの昔語りから、マサエに伝えたかったことを読み確かめる。</p> <p>1 問いかけをもとに書き込みの視点を設定し、前時に自分の読みを書きまとめる。 「神様」とは何のことだろうか。 「どうだい、いい話だろ。」と知っているのはなぜか。</p> <p>2 書き込みをもとに話し合う。</p> <p>3 話し合ったことをもとに、「今日の学習で」にまとめる。</p>	<p>・場面をつないで読む ・繰り返しを読む ☆はきやすいように、あったかいうように、・・長持ちするように、心をこめて ☆使う人の身になって・・・</p> <p>・一行空きを読む ☆ああ、とっても幸せにくらしてよ</p>	<p>○ おみつさんの仕事ぶりとおみつさんの仕事に対する考えが分かる叙述をつないで、共通点に着目させどんな考え方が分かるかを書かせる。</p> <p>○ 「どうだい、いい話だろ」と話すおばあちゃんの様子を考えさせ、おじいちゃんの見方考え方を大切にしてきたおばあちゃんの生き方を意識させる。</p> <p>△ 書き込みを見取り、分類して意図的に指名しながら話し合わせる。</p> <p>○ 1行空きの意味をとらえさせ、おみつさんがおばあちゃんになるまでの年月、ずっと幸せだったことを書き込ませる。</p> <p>□ 読み確かめたおばあちゃんの伝えたかったことと、使った読み方、深まったことを「今日の学習で」に書かせる。</p>
	6	<p>【1組本時6/10】</p> <p>おばあちゃんとおじいちゃんは心をこめてする仕事だけでなく、長年そんな考え方でできるお互いを思いやり人に尽くす生き方を大切にしながら生きてきた。だから年老いた今でもとっても幸せに暮らすことができていることを伝えたかった。それは、場面をつないだり、一行空きや繰り返しを繰り返すことで分かった。</p>		

	<p>7 8 【組本時8/10】</p>	<p>マサエが「わらぐつの中に神様が いなくなった話」を聞いてどう変 わったかを読み確かめる。</p> <p>1 問いかけをもとに書き込みの 視点を設定し、前時に自分の読み を書きまとめる。 「この雪げたの中にも・・・神様が いるかもしれないね。」と言ったのはなぜか マサエの言う「神様」とは、何か 「かかえたまま・・・飛び出した」のはな ぜか</p> <p>2 書き込みをもとに話し合う</p> <p>3 話し合ったことをもとに、「今 日の学習で」に書きまとめる。</p> <p>マサエは、おばあちゃんの言う「神様」 を理解するようになり、人に尽 くして幸せにくらしてきたおばあ ちゃんの生き方に共感するようになった。 そして、さらにおじいちゃんを 尊敬する気持ちをもつようになってい た。それは、文末表現を読んだり、こと ばをはずして読んだり、似ていることば と比べて読むことで分かった。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・文末表現を読む ☆きれいだ かわ いいね ・はずして読む ☆…この雪げた の中にも神様 がいるかもしれ ないね。 ・似ている言葉と 比べて読む ☆…雪げたをか かえたまま飛 び出していき ました 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 中心文と冒頭のマサエの言動と 比べて、どう変わったか分かる文に サイドラインを引かせる。 ○ どんな「読み方の種」が使える か考えさせる。 ○ 「雪げたの中にも・・・かもしれ ないね。」と言った理由を書き込ませ、 おばあちゃんの話の前後のマサエ の「神様」に対する考え方の違いを 意識させる。 ○ マサエの言う「神様」とは何を指 しているのかを書き込ませ、マサエ おじいちゃんおばあちゃんへの見 方がどう変わったか、自分の読みを 書き込ませる。 <p>△ 書き込みを見取り、分類して意図 的に指名しながら話し合わせる。</p> <p>△ 「かかえたまま」と「持ったまま」 を動作化で比べて話し合い、「かか えたまま・・・飛び出した」わけを再 度書き込ませ、交流させる。</p> <p>□ 読み確かめたマサエの変容と、使 った読み方、深まったことを「今日 の学習で」に書かせる。</p>
<p>読み ・ 読み 方 の ま と め</p>	<p>9</p>	<p>1 読みのまとめをする。 (1) 読み確かめたおばあちゃんの 伝えたいこととマサエの変容を 振り返り、題名のはたらきにつ いて話し合う。 (2) 自分の経験とつないで、学ん だ見方生き方について自分の考 えを書きまとめる。</p> <p>2 「読み方の種」のまとめをする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・文章構成の意図を読む。 ・場面をつないで読む。 ・言葉を比べて読む。 ・言葉をはずして読む。 ・文末表現を読む。 ・題名のはたらきを読む。 <p>題名「わらぐつの中の神様」とは、おばあちゃんがマサエに伝えたかった「人の身になって精一杯のこ とをする真心」のことで、その「神様」を大事にしながら幸せな人生を送ってほしいという願いも込められて いた。真心のわかるおじいちゃんに出会って、何十年の間、おばあちゃんは家族やまわりの人にきつと真 心を尽くして大切にしてきたと思う。わたしも、そんな生き方ができる人になりたいと思った。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・題名のはたらき を読む ☆わらぐつの中の神 様 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 掲示物や読み取りノートを使っ てこれまでの学習を振り返らせ、題 名が意味するものについて書き込 ませる。 <p>△ 「わらぐつの中の神様」を学習し て、おばあちゃんおじいちゃんのも のの見方考え方から学んだことは ないか考えさせ、交流させる。</p> <p>□ 身に付いた読み方と読み確かめ たこと、おじいちゃんおばあちゃん の見方考え方から学んだことを書 きまとめさせる。</p>
<p>関連</p>	<p>10</p>	<p>1 教科書を参考に心温まるお話を 読む。</p>		<p>※ 短編を一つ選んで読み聞かせを し、図書館にある本を紹介する。</p>

第5学年 組 (公開授業①)

5. 本時(6/10)読み深め・読み確かめ

6. 本時の目標

- おばあちゃんが、わらぐつの中に神様がいらした話を通して、人の身になって一生懸命尽くす真心をもって生きる大切さをマサエに伝えようとしていることを読み確かめることができる。
- 一行空きの文章構成の意図を読む、くり返しを読む、場面と場面をつないで読む「読み方の種」を習得・活用し、書く活動や交流活動を通して「いい話だろう」の言葉のもつ大切さに気づき、考え、発見し、確かにすることができる。

7. 本時指導の考え方

前時に、子どもたちは、おばあちゃんの話に登場してくる人物の人物や言葉に着目し、「『神様』とは何のことだろうか。」「『どうだい、いい話だろう。』とは何がいいのか。」という2つの問いかけをもとに書き込みをし「おばあちゃんがマサエに伝えたかったことは何か。」について自分の読みをつくっている。

本時は、書き込みをもとに、「大切なのは、見かけだけでなく、人の身になって精一杯のことをする真心だ。そういう真心を大切に生きてきた自分たちは幸せだ。」と言える生き方を自分の証拠や理由を明らかにし、読み確かめる学習である。

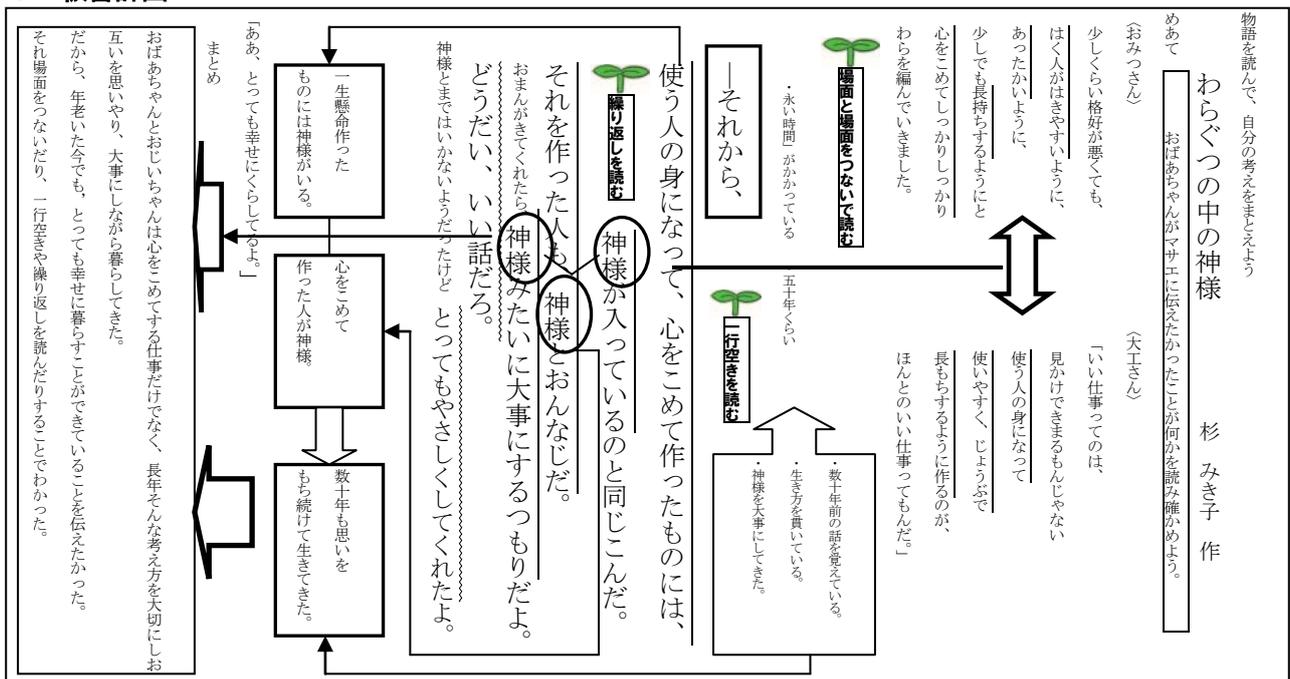
そのために、代表児の発表をもとに、話し合いを展開していく。代表児の読みとしては、A:「一生懸命に作ったものには神様がいるから大切にしなければいけない」ということ、B:「それを作った人も、神様とおんなじだ」ということ、C:「数十年も当時の思いをもち続けて生きてきた生き方」が予想される。これらの読みの違いは、「神様」のとらえ方の違いによるものと考えられる。そこで、まず、どこを証拠として、どのような理由で、何を「神様」と言っているのか、話し合わせていく。

次に、「どうだい、いい話だろう。」とは「何をいいと言っているのか」について交流させる。この書き込みの視点については、初めの書き込みの段階で、自分の読みを十分につくることができていないと考えられる。そこで、「—それから…どうだい、いい話だろ。」の叙述を音読させ、「なぜ、誇らしげに言っているのか」を考えさせた上で、文章構成における一行空きと、「なぜ、昔のことを現代の言葉で語っているのか」の理由を考えさせることで、「どうだい、いい話だろう」の「いい話」について再度書き込みをさせて交流させる。その後、「おばあちゃんがマサエに伝えたかったことは何か。」について発表させ、全体に広げ、おばあちゃんが伝えたかった心や生き方を確かにしていきたい。

最後に、はじめの読みと比べてどんなところが深まったのか、どんな「読み方の種」を習得・活用することができたか、読んだことについての自分の考えはどうだったのか、という3つの観点で「今日の学習で」に書きまとめる。

考えのまとまらない子どもには、板書を使って読み深めたことや活用した「読み方の種」等について発表させ、それをもとにして書きまとめるよう、言葉かけをしていく。

8. 板書計画



9. 本時の展開

学習活動と内容	指導上の留意点・言語活動の工夫 ○書くこと① △交流 □書くこと② ☆「読み方の種」
<p>1 本時のめあてを確認する。 (1)前時までを想起する【書くこと①】。</p>	<p>※ 学習の流れ図をもとに、前時までの学習を振り返らせる。 ○ 書き込みの視点、書き込んだことを確認させる。</p>
<p>[書き込みの視点] ① 「神様」とは何のことか。 ② 「いい話だろう」とは何が「いい話」だろう。</p>	<p>[見通しのもたせ方] →・おみつさんと大工さんのやりとりの言葉に着目して →・大工さんの言った言葉に着目して →・「おばあちゃんの昔語り」の中で、なぜこの話だけが現在かに着目して あてと終末の「今日の学習で」のまとめ方を確認させる。</p>
<p>[学習のめあて] おばあちゃんがマサエに伝えたかったことは何かを読み確かめよう。</p>	
<p>2 書き込みをもとに話し合う。 (1)代表児の発表をもとに、自分の読みを確認する。</p>	<p>△ 書き込みを分析し、息図的に指石していきながら、答え・証拠・理由付けの3点を構造的に板書していくようにする。</p>
<p>[予想される読み] A：「一生懸命作ったものは、大切にしなければいけない」ということ。 B：「見かけより心をこめて一生懸命することが大切」ということ。 C：「数十年も思いを持ち続けてきた」ということ。</p>	<p>☆ 場面をつないで読む おみつさん「はく人がはきやすいように、あったかいように、…長持ちするようにと、心をこめて」 大工さん「使う人の身になって、使いやすく、じょうぶで、長持ちするように作るのが」</p>
<p>(2)「神様」とは何のことか、話し合う。 (3)おばあちゃんが誇らしげに言っている「いい話だろ。」とは何がいいのかを再度書き込みし、交流する【交流】。</p>	<p>△ 「こつたに、いい話だろ。」を自読させ、なぜ「いい話だろ。」と誇らしげに言っているのか考えさせる。その際、一行空きの文章構成における時間的経過や、どうして昔のことなのに現在のことのように話しているのかを考えさせたりして、「いい話」に込められたおばあちゃんの生き方について考えさせ、再度書き込みをさせる。</p>
<p>①「神様」とは 一生懸命に作ったものには神様がすんでいることと同じ。また、それを作る人も神様と同じことが分かったこと。 ②「—それから…どうだい、いい話だろ。」とは おばあちゃんが今でも数十年前の大工さん(おじいちゃん)の言葉をはっきり覚えていて、そこに含まれる心を大切に生きてきたことと、おばあちゃんが誇らしげに自分の生き方を言っている意味が分かる。</p>	<p>☆ 一行空きを読む…「—それから…」 △ 「—それから…」を自読させ、関係性を考えさせる。</p>
<p>(4)おばあちゃんがマサエに伝えたかったことは何かを言えるのか話し合う。 3 読み確かめたことと、読み方を書きまとめる【書くこと②】。 ・読み深めたおばあちゃんたちの考え方や生き方 ・習得・活用した「読み方の種」 ・読んだことについての自分の考え</p>	<p>□ 書きまとめる前に、板書を使って本時の学習のまとめをさせた後に「今日の学習で」に書きまとめさせる。</p>
<p>[学習のまとめ] おばあちゃんとおじいちゃんは心をこめてする仕事だけでなく、長年そんな考え方を大切に、お互いを思いやり、大事にしながら暮らしてきた。だから年老いた今でも、とっても幸せに暮らすことができていることを伝えたかった。それは、場面をつないだり、一行空きや繰り返しを読んだりすることで分かった。私も、外見だけにとらわれることなく過ごしていきたい。</p>	

9. 本時の展開

学習活動と内容	指導上の留意点・言語活動の工夫
<p>1 本時のめあてを確認する。 (1)前時までを想起する【書くこと①】</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>〔書き込みの視点〕</p> <p>①マサエの言う「神様」とは、何を指しているのか。</p> <p>②「この雪げたの中にも・・神様がいるかもしれないね。」 と言ったのはなぜか。</p> <p>③「かかえたまま・・飛び出して」いったのはなぜか。</p> </div> <p>(2)本時のめあてを確認する。</p>	<p>指導上の留意点・言語活動の工夫 ○書くこと① △交流 □書くこと② ☆「読み方の種」</p> <p>※ 掲示物をもとに、前時までの学習を振り返らせる。 ○ 書き込みの視点、書き込んだことを確認させる。</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>〔見通しのもたせ方〕</p> <p>→ 直前のことばや昔の祖父母の言動とつないで</p> <p>→ 冒頭のマサエのことばとつないで</p> <p>「も」の意味に着目して</p> <p>→ 冒頭のマサエの様子とつないで</p> </div> <p>※ 本時の学習の見通しを持たせるためにめあてと終末の学習の「今日の学習で」のまとめ方を確認させる。</p>
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 0 auto; width: 80%;"> <p>〔学習のめあて〕</p> <p>マサエが「わらぐつの中に神様がいない話」を聞いてどのように変わったのか読み確かめよう。</p> </div>	
<p>2 書き込みをもとに話し合う。</p> <p>(1) 代表児の発表をもとに、自分の読みを確認する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>〔予想される読み〕</p> <p>A 神様を信じるようになった。</p> <p>B 人のことを思う真心がわかるようになった。</p> <p>C おばあちゃんにやさしくなった。</p> <p>D おじいちゃんを尊敬するようになった。</p> </div> <p>(2)マサエの「神様」のとらえ方の変化を話し合う。 ・ものに込められた相手を思う心を大切に思うようになったこと</p> <p>(3)おばあちゃんへの態度の変化を話し合う。 ・おばあちゃんを思う心があらわれた言動とその思い</p> <p>(4)おじいちゃんに対する見方の変化を再度書き込みをし、交流する【交流】。 ・「かかえたまま・・・飛び出していました」に表れたおじいちゃんへの思い</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>「・・かかえたまま・・飛び出していった」のはおじいちゃんおばあちゃんの生き方の素晴らしさが分かり尊敬するようになったから、おじいちゃんの真心(である雪げた)を落とさないように大切にかかえたまま、おじいちゃんにとても会いたくて飛び出して行った。</p> </div> <p>(5)マサエの心情がどう変化したと言えるか話し合う。</p> <p>3 読み確かめたことと、読み方を書きまとめる【書くこと②】。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・読み深めたマサエの心情の変化 ・習得・活用した「読み方の種」 ・読んだことに対する自分の考え 	<p>△ 自分の読みがどれに近いか挙手によって確認させる。</p> <p>△ 書き込みを分析し、意図的に指名していきながら、証拠や理由を確認していく。</p> <p>△ 代表児の考えを発表させ、それに対する自分の考えを話し合わせる。</p> <p>☆</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>「この雪げたの中にも神様がいるかもしれないね。」…言葉を比べて読む 「雪げたをかかえたまま、飛び出していました。」…似た言葉と比べて読む</p> </div> <p>△</p> <p>○ 飛び出していったマサエがおじいちゃんにどんなことを話すと思うか考えさせ、マサエの感動を思い描かせる。</p> <p>△ 代表児の提案に戻り、それぞれの読みの相関関係を考えさせる。</p> <p>□ 書きまとめる前に、板書を使って本時の学習のまとめをさせた後に「今日の学習で」に書きまとめさせる。</p>
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 0 auto; width: 90%;"> <p>〔学習のまとめ〕</p> <p>マサエは、おばあちゃんの言う「神様」を理解するようになり、人に尽くして幸せにくらしてきたおばあちゃんおじいちゃんの生き方に共感して、わらぐつだけでなく雪げたにも神様を感じるようになった。そして、さらにおじいちゃんを尊敬し、素晴らしいと思う気持ちをもつようになっていた。それは、文末表現を読んだり、言葉ははずして読んだり、似ている言葉と比べて読むことで分かった。私は、そんな気持ちになったマサエは、おばあちゃんの話で成長できたと思った。</p> </div>	